

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

493

小児慢性特定疾病事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	7	健康で元気に暮らせる環境づくり
施策	4	保健医療対策の推進
取組方針	1	難病患者への相談支援体制の充実

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	衛生費		
	項	保健衛生費		
	目	母子衛生費		
	大事業	母子衛生事業		
中事業	小児慢性特定疾病事業			

事業種別	継続		関連個別計画	地域保健医療計画 次世代育成支援行動計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	保健対策課	谷井 朋子 488-5104
事業実施の根拠法令	児童福祉法		関連課			

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要		
	小児慢性特定疾病児童の健全育成を図るとともに、家庭における医療費負担等の軽減を図ることで、生活支援を図る。		長期にわたる治療による負担は、児童及び家族の身体精神的、社会的、経済的な負担を生じることとなる。良質かつ適切な小児慢性特定疾病医療支援を実施し、また小児慢性特定疾病児童等の健全育成に係る事業を推進する。 【児童福祉法第6条等】		
事業内容	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	医療費の助成を行った。 給付延件数4,595件 個別訪問による療育に関する相談支援を行った。 訪問件数 77件 日常生活用具の給付を行った。 給付件数 3件	医療費の助成を行った。 給付延件数4,563件 個別訪問による療育に関する相談支援を行った。 訪問件数 75件 日常生活用具の給付を行った。 給付件数 3件	医療費の助成を行った。 給付延件数4,595件 個別訪問による療育に関する相談支援を行った。 訪問件数 68件 日常生活用具の給付を行った。 給付件数 5件	医療費の給付 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の実施 日常生活用具の給付	医療費の給付 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の実施 日常生活用具の給付

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	99,979	100,096	104,343	92,248	101,434	109,195	97,933	0	97,933	0
伸び率(%)	0.1%	△6.1%	4.4%	△7.8%	△2.8%	18.4%	△3.5%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	6,439	6,827	6,540	5,061	4,636	4,479	3,143	0	0
	正規職員以外	1,102	1,102	1,044	908	1,039	1,152	0	0	0
	小計	7,541	7,929	7,584	5,969	5,675	5,631	4,295	0	0
国庫支出金	49,758	52,952	51,865	48,940	50,995	50,995	48,692	0	48,692	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	50,221	47,144	52,478	43,308	50,439	58,200	49,241	0	49,241	0
所要人数(人)	正規職員	0.83	0.88	0.84	0.65	0.59	0.57	0.40	0.00	0.00
	正規職員以外	0.48	0.48	0.46	0.40	0.46	0.51	0.51	0.00	0.00
主な予算内訳	国指定疾患医療費 98,866千円									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
新規・継続給付申請受付件数		件	目標値					
			実績値	390	374	376		
			達成度(%)	0%	%	%	%	%
訪問相談件数		件	目標値					
			実績値	77	75	68		
			達成度(%)	0%	%	%	%	%
医療費の給付件数		件	目標値					
			実績値	4595	4563	4595		
			達成度(%)	0%	%	%	%	%
			目標値					
	実績値							
	達成度(%)							

#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	児童福祉法に基づく制度であり、国庫負担金対象の事業であることから現状の医療給付を継続する。
見直し・改善内容	申請手続き等において、市民が不安なく申請できるようホームページ等を活用し制度の周知を図る。